

第9回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)11月30日(火) 18時00分~19時30分		
場所	長野県伊那合同庁舎 講堂		
出席	懇話会構成員24名		
欠席	山田 益、林 裕二、宮内 華	傍聴者	傍聴22名、報道7名(内、オンライン傍聴は3名)
事務局	伊那北高校	山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、齋藤教諭、山崎教諭	
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭	
	県教育委員会	駒瀬室長、田中主任導主事、石井主事、浅井主事	
当日資料	第9回懇話会次第、第8回懇話会まとめ、伊那新校 学びのイメージ、伊那新校 校地選定について、校地選定の結果報告		

会議事項

1 報告	(1) 第8回懇話会まとめ
2 会議	(1) 伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)についての意見交換 (2) 校地選定についての意見交換
3 連絡事項	次回予定(令和3年12月21日(火))

意見交換(伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)、校地選定について)

【伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)について】

<キャッチフレーズ、目指す学校像について>

- キャッチフレーズについて、誰に向けて発信するものなのか、わかりにくいので検討してほしい。
- 他校の目指す学校像と比較して、検討してほしい。
- 目指す学校像について、探究と社会貢献とのつながりがわかりにくい。また、「多様な価値観を共有し、他者との協働を通して…」の表現は逆だと思う。「主体性」は、自ら考え、自ら行動するという具体的な表現のほうが分かりやすい。
- 新校はこの地域の随一の進学校である。このイメージ図では、進学校という表現を避けているように感じる。

<システムについて>

- 2つの学科の違いがよくわからず、中学生に説明がしにくい。内容も含め、わかりやすくしてほしい。
- 普通科と文理学際科の違いについて1年次に何をするかを、もう少し具体的にしてほしい。
- 中学校から目標を持っている子ども達は、学科を分けて入学してくる方がわかりやすいのでは。この議論をしたい。
- 1年次は一緒に、2年次に分かれるのか、入学時から分けて募集するのか、メリット、デメリットをあげて議論していきたい。
- 長野県では高校入試の制度上、普通科と特色学科のくくり募集ができない。その部分を変える議論もしてほしい。

<学科の名称(文理学際科)について>

- 広く探究していくと受け止めたが、学際という言葉はイメージしづらい。名称は引き続き検討していただきたい。

<学びのイメージについて>

- 伊那新校ならではの特徴がはっきりしていないと、他地区へ流出してしまう。学校が目指すものを明確にし、諏訪や松本から入ってきってもらえるような学校にしなければならない。
- 統合で高校の選択肢が一つなくなる。特徴なく統合しても、受検生の選択肢になりえない。特徴を出したい。
- 学校像をなぜ、ぼやかしているのか。輪郭をはっきりさせ、この学校を選んでよかったとならなければいけない。
- 今の学力より確実に高いレベルに3年間で伸びる学校でありたい。高校で伸びていくことができればよい。
- この地域に有名な進学校があることは、Uターン、Iターンを考えたて決め手になることになる。
- 探究は大学入試につながることはわかる。そのあたりをもう少し明確に出した方がよい。
- 懇話会でくり返し述べた意見を、学校像に反映させてもらいたい。

【校地選定についての意見交換】

- 校舎が一体となった校地の広さを最も重視されていたが、周辺環境の違いの部分も重視してほしい。

今後の検討課題

- 再編実施基本計画(案)の策定に向けた意見交換
- カリキュラム等の具体的な学びの展開や地域連携・コンソーシアムについての意見交換